

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1282
施設名	国立たいよう保育園
施設所在地	東京都国立市富士見台2-13-10
法人名	社会福祉法人まあれ愛恵会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
・年齢を問わず、興味関心の強い題材であるため。楽器を気兼ねなく使用できる環境も整っているため。

2. 活動スケジュール

毎月 音楽WS

2月 楽器ではない音

3月 リズムと音

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
・タンバリン・イロハタワ－・ミュージックパッド・コロコロボーリングセット・エレファン
トラトル・やわらかゴムマット

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・毎月外部講師に依頼し様々な楽器音楽に触れる機会を設けた。ワークショップを通して楽器への興味を深めタンバリン、太鼓、マラカス等、音の違いや重なりを楽しむ。
・乳児クラスは楽器だけでなく、音の出る玩具を用意し意図的に音を出すのではなく、触れる中で偶然出る音（振る、転がす、落とす、等）に気づき子どもが主体的に働きかける。
・幼児クラスはミュージックパッドを使用し、身体全身を使い音の出かた、リズム、大きさ等、変化を楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・初めて見る楽器、講師の先生の演奏等、色々な音を全身で感じる。楽器に触れる中では使い方、強弱での音の違いなど、思い思いに楽しみ、継続的に音に触れる機会を楽しんだ。
- ・乳児クラスでは音の出る玩具での活動は転がす、振る、落とす等、子ども自身が自ら働きかける。音の心地よさを感じ次第にリラックスし横になって動かしたり、手の動きだけでなくジャンプして一緒に動く姿も見られた。自分で楽しんでいた音を保育者や周囲の他児に聞かせようとする動きも出てきたり、楽しさ、心地よさを他者と共有する行動に発展していった。
- ・幼児クラスはミュージックパッドを使いはじめは自分の持っている音を手や足お尻等、身体を使って様々な音の出し方を試す。出る音の違いに気づくと他児の持っているものと交換、2つの音を合わせて交互に、最終的にはすべてをいしとびのように並べて集団での遊びに発展した。順番を並べ替えながらパッドの間を長くしたり短くしたり、距離を変えると音の間隔が変わることにも気づいていった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・音に対して子どもたちの集中力は深く、持続時間も長い印象を受けた。特に静寂の中で出す音は響きは子どもたちの心も穏やかにしているように感じた。違う楽器、違う玩具を使っていると、興味・関心が伝播し、自然と子ども同士の関わり合いが見られ、気づきが気づきを呼ぶ展開が多く見られた。